

中田 淳 主任研究員のご逝去を悼む



中央水産試験場資源管理部 中田 淳主任研究員は、2004（平成16年）年4月18日札幌市の病院で逝去されました。享年48歳でした。

中田主任研究員は、1955（昭和30年）年8月8日札幌市にお生まれになり、1978（昭和53年）年北海道大学水産学部水産増殖学科を卒業され、1979（昭和54年）年に北海道立釧路水産試験場に赴任されました。漁業資源部漁業科の研究職員、函館水産試験場と中央水産試験場漁業資源部沖合科長、その後、稚内水産試験場資源管理部主任研究員を歴任され、2003（平成15年）に中央水産試験場資源管理部主任研究員として勤務されました。逝去されるまでの26年間、一貫して浮魚類の水産資源研究分野の研究に携わり、

本道漁業の発展に寄与されてきました。とりわけ、スルメイカの資源生態研究では日本における代表的研究者として頭足類の国際シンポジウムにも参加し、スルメイカの耳石日周輪解析にも他に先駆けて行うなど多くの業績を上げられてきました。また、漁業現場にも精通し、漁業者への講演などでは持ち前の語り口と情熱で人気を博されていました。その人柄から多くの人に慕われまた頼りにされ、水産試験場にとってなくてはならない存在でありました。

2002（平成14年）年9月に赤血球等に異常があり札幌の病院に入院され、検査の結果悪性リンパ腫とわかり6か月間入院されました。2003（平成15年）年3月に回復し、退院されました。4月には中央水試に転勤されましたが、4月半ばに再入院されました。その後、治療の効果があり10月に退院されましたが、職場復帰直前の11月にまた入院されました。

4月16日の「ご無沙汰でした。体調不良でヘコンダ毎日を送ってましたが、病名が悪性リンパ腫と確定診断され、明日より抗がん剤治療startとなりました。より適合した薬の使用に期待を抱いています。まだまだ悪運強い中田」とのメールが最後となりました。17日より新たな治療が開始された直後の18日に容体が急変されました……。

今後の水産試験場の舵取りを託すべき人材を失ったことは大きな痛手であり、誠に残念でなりません。

ここに、中田主任研究員の生前のご功績をたたえ、心よりご冥福をお祈り申し上げますと共に生前、多くの関係各位から賜ったご厚誼に厚く感謝申し上げます。

（中央水産試験場）